

6月1~7日は「水道週間」 暮らしに欠かせない 水はどこから



水道水あれこれ

◆漏水の発見方法は？

家中の蛇口を全部締め、水道メーターの中にあるパイロットマークを見てください。少しでも回っていたらどこか漏水している証拠です。

◆水道水をよりおいしく飲むためには？

おいしい水の温度は、だいたい15℃前後といわれています。冷やして飲むとおいしくなります。また、塩素の臭いが気になる方は、沸騰し、湯冷ましにして飲むとよいでしょう。

◆水道水を一人1日どのくらい使うの？

平成26年3月現在最大で317ℓ、25年度平均266ℓです(2ℓペットボトル133本分)。4人家族だと532本になります。

◆東京都の水道水の方がおいしい？

水源として、川の水や井戸水を使っているのはどちらも同じです。川の水を浄水場で飲める水にしますが、東京都では高度浄水処理ができる浄水場がつくられていますので、カビ臭なども取り除けておいしいのかもしれない。

◆災害や湯水などで水道水が不足したら？

限定地域での断水の場合は、給水車で水を配りますが、市が所有している給水車は、2トン車1台です。500ℓのプラスチック容器や6ℓ給水袋なども準備していますが、災害時に備えて、やはり自宅である程度の備蓄が大切になりますね。



浄水場から家庭まで

「富士見市の水道」より引用



水道施設配置図



総合配水管理センター (東大久保浄水場内)



水道のあゆみ

平成4年 10月	鶴瀬西配水場竣工(県水) 配水16,000m ³ /日
昭和63年 2月	高台地区への安定給水のための事業に着手 水道普及率ほぼ100%達成 (人口約91,400人)
昭和49年 7月	東大久保浄水場竣工 配水能力30,040m ³ /日 (第3号井戸、県水)
昭和49年 6月	需要量の急増、地盤沈下などを考慮して埼玉県営西部第一水道より県水の受水開始 (人口約67,000人)
昭和48年 8月	新庁舎完成
昭和47年 5月	富士見市誕生 (人口約59,400人)
昭和47年 4月	機構改正で水道部となる。
昭和46年 9月	水谷浄水場竣工 配水能力9,880m ³ /日 (第4号、第5号、第6号井戸)
昭和40年 8月	南畑浄水場竣工 配水能力4,640m ³ /日 (第1号、第2号井戸)
昭和39年 4月	富士見町誕生 (人口約19,800人)
昭和39年 3月	富士見村全域(公園を除く)を給水区域とした事業認可を受ける。
昭和38年 3月	東大久保地区に「富士見村修徳簡易水道組合」が設立される。深さ120mの深井戸をさく井、地下水を汲み上げる目的で事業認可を受ける。
昭和31年 9月	鶴瀬村、南畑村、水谷村が合併し富士見村誕生 (人口10,772人)



このころ、関沢や鶴瀬西地域では、各家庭や近所同士で井戸を掘って、生活用水に使っていました。